

# 夢に向かって

もっと高みを目指して——

引地 <sup>えいた</sup> 英太 さん (県北中3年)

僕の将来の夢は、志望校に合格し、ソフトテニスで東北大会や全国大会に出場することです。

中学校の部活では、県大会に2度出場することができましたが、まだまだ満足していません。部活を引退したことで、「テニスが続けたい」「もっと上位の大会で良い成績を残したい」という気持ちがさらに強くなりました。

高校でのテニスは、中学校の部活よりもさらに厳しくなると思うし、今まで以上に「基礎が身についていること」が大切になってくると思います。受験勉強と両立して基礎練習をしっかりと継続し、苦手なバックを克服したいです。

また、競技をするうえで、ペアやチームメイトとコミュニケーションを取ることはとても大切なことだと思います。これからも人間関係、特に人との関わりを大切にしてテニスが続けていきたいです。

今後は、テニスだけに集中するのではなく、志望校合格を目指して苦手な数学や英語などの勉強にも力を入れて学習に取り組んでいきます。



ソフトテニス部では部長を務めていた引地英太さん。「絶対に全国大会に出場します!」と力強く宣言してくれた引地さん。誰にも負けたくないという意気込みを感じられました。

町長コラム



ま 真 くらむ

【第18回】

## ギフト～願いと祈り～

知花、妃那、朱李、歩夢、春菜、和歩、愛麗那、花恋、杜和、雪乃、温翔…。今、1月8日の「はたちの成人のつどい」で、一人ひとりに贈る証書に名前を書いている。成人式を担当していた職員のころも書いてたからなあ、何回目になるんだろう。

成人年齢が20歳から18歳に引き下げられて、成人式=20歳がすっかりこなくなる。でも、国見町はこれまで同様、対象者は20歳。内容も式典とパーティーで同じ。ただ、式の名称は「はたちの成人のつどい」に変更。これは対象の代表たちが決める。パーティーはともかく、20歳の子たちが堅苦しい式典を希望するなんて「あれ? 意外!」と思ったら、「僕たちは、新型感染症で高校生活はおろか卒業式も、大学の入学式も、会社の入社式も満足していない。だからせめて、はたちのつどいでは式典をしてほしい」と。担当からこれを聞いてハッとした。そっかあ…。そうだよなど。

君たちが元気な産声を上げたとき、皆が祝福した。そして、お父さんとお母さんには大事な指令が下される。それは君たちに名前を贈ること。きっと悩んだはずだ。悩んだ分、君たちの名前には、願いが込められている。祈りが込められている。そう、名前は親から子への最初のギフト。

証書に名前を書きながら、そのときの親たちの心を勝手に想像してる。



引地 真